



とやまから世界へ行かんまいけ！

2020 JET 世界まつり



報告書

A Report on the JET World Festival 2020

日時：2020年2月15日（土） 12:00~16:00

場所：タワー111（富山市牛島新町5-5）

主催：AJET JET 世界まつり 2020 実行委員会

JET 世界まつり 2020 実行委員紹介 Part 1

Introduction of the JET World Festival 2020 Executive Committee

県国際課 ポルトガル語国際交流員

Marcelo Yoshimura (Brasil)
- マルセロ・ヨシムラ (ブラジル) -



Q. ブラジル人って、みんなそんな顔？

A. いいえ。ブラジルは移民の国なので、顔も体型も肌の色も様々で、「〇〇系ブラジル人」が多いです（日系、イタリア系、ドイツ系、などなど）。

Q. 出身はブラジルのどこ？

A. 富山県と友好提携協定を結んでいるサンパウロ州にある、サンパウロ市です。

（ちなみにジャングルではありません）

Q. コーヒーは好きですか？

A. ブラジル人はコーヒー好き、とは限りませんが、好きです。いつも職場で嫌がらせのようにポットのコーヒーを飲み干しています。



県国際課 インド国際交流員
Dasari Ramesh (India)
- ダーサリ・ラメーシユ (インド) -

Q: 富山県で一番好きな場所はどこですか。

A: 立山のアルペンルートです。
自然いっぱいロマンチックです。

Q: 日本の好きな映画やドラマは何ですか？

A: 色々ありますが、涙そうそう、
北の国から、男はつらいよ、
釣りバカ日誌が大好きです。
何回も見ました。

Q: 富山に来て驚いたことは何ですか？

A: インド料理屋が
たくさんあることです。
こんなにあるとは
思っていなかった。

実行委員長

県国際課 英語国際交流員

Mathieu Glacet
(France, US, Trinidad and Tobago)
- マチユ・グラセ
(フランス、アメリカ、トリニダード・トバゴ) -



Q: 一番好きな食べ物は何か？

A: フランスのサヴォワ地方の料理、
特にフォンデュです。

Q: 富山の一番好きな温泉は何か？

A: 写真の通り、大長谷温泉です。

Q: どうして日本に興味を持ちましたか？

A: 若いころ、和英辞典を見て、漢字が気になりました。

県国際課 韓国語国際交流員

유새별 (대한민국)



- ユ・セビョル (俞セビョル) (大韓民国) -



Q よく食べる韓国料理は？

A キムチチゲ (김치찌개)。
作り方は簡単だし、美味しいし、一回作ると3食解決。
最後はチャーハンで食べられるから最高！

Q 特技は？

A パワーポイント！元々パワーポイントの先生です。

Q 将来どのような人になりたい？

A 自由に生きる人になりたいです。

目 次

Contents

JET 世界まつり 2020: はじめに	1
JET World Festival 2020－Introduction	
JET 世界まつり 2020: 概要	3
JET World Festival 2020－Overview	
広報活動・ボランティア募集	5
Promotion and Recruiting Volunteers	
ステージ・パフォーマンス	7
Stage Performances	
JET アート&デザイン展	10
JET Art&Design Exhibit	
国際ブース	11
International Booths	
国際カフェ	13
International Café	
キッズコーナー	15
Kids Corner	
世界いろいろ体験コーナー	17
Multicultural Experience Workshop	
写真コンテスト	19
Photo Contest	
参考資料	
・「語学指導等を行う外国青年招致事業(JET プログラム)について （JET 青年の職種と職務／富山県の JET 青年招致人数推移／国別招致者数）」	21
・JET 世界まつりについて	
・とやま名誉友好大使について	
・AJET	

はじめに

JET 世界まつり 2020 実行委員長
ダーサリ ラメーシュ（インド）

インドでは「ワスダイカ クトンバム」ということわざがあります。意味は「この世界は一つの家族だ」という意味です。私はこのことわざを小学生の時に学校で学びましたが、今年の JET 世界まつりで初めて実感することができました。



「JET 世界まつり」は毎年、数千キロ離れる国々で生まれ、JET プログラムを通して富山県に来た国際交流員（CIR）が企画し、外国語指導助手（ALT）や留学生、富山県民の力を合わせて運営する非営利の国際交流イベントです。みんな一つの家族になってこのイベントのために努力して続けてきた結果、今年で 25 回目となりました。このイベントで得た経験から「ワスダイカ クトンバム」という言葉は正しいと感じました。

今年の JET 世界まつりのテーマは「とやまから世界へ行かんまいけ！」でした。去年とはあまり変わらないテーマですが、そのテーマには今年も富山弁のフレーズがあり富山県民も身近に感じてくれたと思います。JET 世界まつりは世界のいろいろな国々の文化や人々との交流の機会、富山県民の外国に関する知識を高める国際交流フェスティバルです。

毎年できるだけ富山駅に近い場所で開催したいと考えていましたが、今年の JET 世界まつりは富山駅に一番近いタワー111 スカイホール等で開きました。今年の実行委員会は国際交流員 12 名で、その半分以上はこのイベントを三回以上企画した経験者だったので、スムーズに準備できたと思います。今年の会場は去年のより小さかったですが、来場者やボランティアにとっては駅に近くてとても便利な会場だと思います。

60 人以上のボランティアの力を借りて新しい会場で開催した今年の JET 世界まつりは大成功となりました。今年もフィードバックを得るためにボランティア向けのアンケートを実施しました。新型コロナウイルスの影響でたくさんの人々が集まるイベントに人々が集まってくれるか心配していましたが、約 300 人もの来場者にお越しいただきました。このような時期にも関わらずよく足を運んでいただきました。来場者の中には私と最近友達になった富山の人もいて、家族や友達も連れてきてくれたのでうれしかったです。



JET 世界まつり 2020 にご協力いただいた皆様に、実行委員会一同心より感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。また来年も是非ご参加ください！

Introduction

President of the JET World Festival 2020 Executive Committee
Dasari Ramesh (India)

In India, there is a saying, “Vasudaika Kutumbam.” It means, “This world is one family.” I learned this phrase at school when I was in elementary school, but I experienced it for the first time at this year's JET World Festival.

The “JET World Festival” is organized by CIRs, who were born in countries located thousand miles away and came all the way to Toyama Prefecture through the JET Programme. This international festival is a non-profit event organized every year with the assistance of ALTs, international students, and Toyama prefectural residents. As a result of everyone coming together like a family and working hard year after year, we welcomed the festival's 25th anniversary this year. From the experience I gained at this event, I felt the truth of the phrase “Vasudaika Kutumbam.”

The theme for this year was, “Let's go check out the world from right here in Toyama!” The theme is almost unchanged from last year, and I think people of Toyama are able to feel closer to it as it has the flavor of the Toyama dialect in Japanese. The JET World Festival is an international exchange event which helps increase awareness of foreign countries and their cultures by providing citizens with the opportunity to interact with foreigners living in Toyama.

Every year, we hope to hold this event as close to Toyama Station as possible, and this year, we were finally able to hold the JET World Festival inside Tower 111, which is the closest location yet. The preparations for the festival went smoothly as this year's executive committee consisted of 12 CIRs, and in over half had experience organizing this event for three years or more. This year's venue was smaller compared to last year's, but it was very convenient for visitors and volunteers because it is located very near the station.

With the help of over 60 volunteers, this year's JET World Festival at the new venue was a great success. This year, we also created surveys in order to get feedback from volunteers. Due to the coronavirus outbreak, I was worried whether people would come to an event where so many people gather, but we welcomed almost 300 visitors this year. Despite such hard conditions, a good number of visitors came to the festival. Out of visitors, there were some who were new friends, and the fact they brought along with friends and family made me happy.

The Executive Committee would like to give a heartfelt thanks to everyone who participated in JET World Festival 2020 and made it a success. We hope to see you again next year!



JET 世界まつり 2020 概要

- 1 目 的 「語学指導等を行う外国青年招致事業(JET プログラム)」により来県し、国際交流員(CIR)や外国語指導助手(ALT)として活躍中の外国青年(JET 参加者)たちが、出身国について紹介し、富山県民の異文化に対する理解を深めるとともに、ステージ発表、ブースなどを通して JET 参加者と県民との交流を図る。
- 2 主 催 AJET、JET 世界まつり 2020 実行委員会
- 3 後 援 富山県、富山県教育委員会、(公財)とやま国際センター、富山市、富山市教育委員会、北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞北陸支社、毎日新聞富山支局、中日新聞富山支局、北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、富山県ケーブルテレビ協議会、富山エフエム放送
- 4 期 日 令和2年2月15日(土) 12時～16時
- 5 会 場 タワー111 (富山市牛島新町5-5)
- 6 内 容 ステージ・パフォーマンス、国際ブース、国際カフェ、キッズコーナー、世界いろいろ体験コーナー、JET アート&デザイン展、写真コンテスト
- 7 実行委員

委員長	ダーサリ ラメーシュ(インド)	県国際課 国際交流員
副委員長	シェイマス ギルドナー(アメリカ)	入善町 国際交流員
委 員	ヨシムラ マルセロ(ブラジル)	県国際課 国際交流員
	グラセ マチュ(フランス)	県国際課 国際交流員
	兪 セビョル(韓国)	県国際課 国際交流員
	リンジー ヘンダーソン(アメリカ)	黒部市 国際交流員
	ウェイジア ジュウ(カナダ)	高岡市 国際交流員
	韓 冰(中国)	県国際課 国際交流員
	斉 東亮(中国)	県国際課 国際交流員
	エリック ジュティラ(アメリカ)	南砺市 国際交流員
	ホアン ティ チャム(ベトナム)	県国際課 国際交流員
	オレグス ピシュチコフス(ラトビア)	県国際課 国際交流員

JET World Festival 2020 Overview

1. Purpose

Coordinators for International Relations (CIRs) and Assistant Language Teachers (ALTs) who are residing and working in Toyama Prefecture on the Japan Exchange & Teaching Programme (JET Programme) introduce their home countries, deepen prefectural residents' understanding of various cultures, and provide an opportunity for JET participants and other prefectural residents to interact through events and activities such as stage performances and country booths.

2. Organizers

AJET, JET World Festival 2020 Executive Committee

3. Supporters

Toyama Prefecture, Toyama Prefectural Board of Education, Toyama International Center, Toyama City, Toyama City Board of Education, The Kitaniippon Shimbun, Toyama Shimbun, Yomiuri Shimbun Hokuriku Branch, Mainichi Shimbun Toyama Branch, Chunichi Shimbun Toyama Office, Kitanihon Broadcasting Co., Ltd, Toyama Television Broadcasting Co., Ltd., Tulip-TV Inc., TOYAMA Cable Television Association, Toyama FM Broadcasting Co., Ltd

4. Date and Time

Saturday, February 15, 2020, 12:00 – 16:00

5. Venue

Tower 111 (5-5 Ushijima-shinmachi, Toyama City)

6. Events

Stage Performances, International Booths, International Café, Kids Corner, Multicultural Experience Workshop, JET Art&Design Exhibit, Photo Contest

7. Executive Committee

President	Dasari Ramesh (India)	International Affairs Division CIR
Vice President	Seamus Gildner (U.S.A.)	Nyuzen Town CIR
Member	Marcelo Yoshimura (Brazil)	International Affairs Division CIR
	Mathieu Glacet (France)	International Affairs Division CIR
	Yu Saebyeol (South Korea)	International Affairs Division CIR
	Lindsey Henderson (U.S.A.)	Kurobe City CIR
	Wei Jia Zhu (Canada)	Takaoka City CIR
	Han Bing (China)	International Affairs Division CIR
	Qi Dongliang (China)	International Affairs Division CIR
	Eric Jutila (U.S.A.)	Nanto City CIR
	Hoang Thi Cham (Vietnam)	International Affairs Division CIR
	Olegs Pishcikovs (Latvia)	International Affairs Division CIR

広報活動・ボランティア募集

ダーサリ ラメーシュ(インド)

今年の JET 世界まつりは昨年と同じく JET プログラム参加者中心で運営していきたいと思い、ALT の参加とボランティア募集を優先して始めました。富山県内の ALT に JET 世界まつりでボランティア以外に何かパフォーマンスができるか、作品の展示ができるかを確認するメールも送りました。JET 参加者以外には、去年参加して下さった一般のボランティアの方々にもメールを送り、今年も参加してもらえるようお願いしました。それとともに各 CIR が各自に周りの知り合いや職場の人にボランティアの募集メールを送りました。ボランティア登録ができるだけ簡単にできるように今年もグーグルフォームを利用してネットでの登録を呼びかけました。そのおかげでボランティアの調整はスムーズにできました。



今年もケーブルテレビ富山で JET 世界まつり 2020 について PR をしていただきました。実行委員会の一年目の CIR を中心にケーブルテレビ富山の「ご近所チャンネルみんないけ」で各コーナーを紹介しました。また富山県内の新聞やテレビでもイベントの告知をしていただきました。

3年連続になるのですが CIR の兪セビョルさんが今回も素晴らしいポスターを作ってくれ、広報活動に活用しました。富山の人にもっとアピールできるように富山弁で「とやまから世界へ行かんまいけ!」というキャッチフレーズを作りました。また、JET プログラム参加者の出身国の国旗を追加して、日付が分かりやすく見えるように2ヶ所に配置しました。ちょうど今年は東京オリンピックが予定されていたのでポスターの中心に輪を作って中に去年の世界まつりの写真を入れて、分かりやすいポスターが出来上がったと思います。今年も QR コードを作成し世界まつりの公式サイトに簡単に繋がることができるようにし、大勢の人に情報共有できるようにしました。

(世界まつりホームページ: <https://toyamazing.wordpress.com>)



このイベントについて富山県内のたくさんの方々を知ってもらうためにポスターを県内のすべての市町村教育委員会、国際交流担当課、全ての小・中・高等学校、支援学校、短期大学や大学等に送付いたしました。そして富山県庁の提示板はもちろんですが一般の人がよく訪ねる富山市役所や県民会館、市民プラザなどの提示板にも提示しました。こうしたイベントの場合はデジタル PR も必要だということを念頭に、フェイスブックで PR しました。各 CIR も友達や同僚はもちろん、語学講座の受講生にも宣伝しました。今年も写真コンテストの応募やボランティアの募集のため特別なポスターを作成しました。

最後に、各コーナーのボランティア全員から今年のイベントのフィードバックを得る為に、アンケートを

実施しました。ボランティアの皆様に書いていただいた重要な意見を必ず来年の参考に使いたいです。

Promotion and Volunteer Recruitment

Dasari Ramesh (India)

As with last year, we wanted to have the JET World Festival focus more on JET Programme participants, so we started recruiting volunteers by giving priority to ALTs. Emails were sent to all ALTs in Toyama asking them if, in addition to volunteering, they would be interested in showcasing art pieces or performing at the JET World Festival. Emails were also sent to volunteers who had participated the previous year, asking whether they could volunteer again this year, too. At the same time, each CIR sent emails recruiting volunteers to acquaintances and people in their workplace. This year, we again called for online registration using Google Forms to make volunteer registration as easy as possible. Thanks to these measures, the management of volunteers went smoothly.



Once again, Cable TV Toyama helped us in promoting the JET World Festival 2020 this year. All first year CIRs introduced the festival's attractions on Cable TV Toyama's "Gokinjo Channel Minmaike." Newspapers and TV channels within Toyama Prefecture also gave announcements about the festival.

For the past three years, we have used fellow CIR Saebyeol's posters to promote the festival, and our theme was in Toyama Dialect in Japanese (*Toyama kara sekai e ikanmaike!*) in order to appeal more to residents of Toyama Prefecture. The poster also featured the flags of countries represented by prefectural JET Programme participants, and the date was enlarged and placed in two locations to make it more readable. As the Tokyo Olympics were to be held this year, we tried to design a poster which resembles the Olympic rings using circles in the center and included pictures of last year's festival inside them, thus making the poster easy to understand. This year, we also created a QR code so that people can easily connect to the World Festival's official website and share it with many others. (Official website : <https://toyamazing.wordpress.com>)

In order to spread awareness of the event to Toyama's citizens, posters were sent to the Boards of Education and departments in charge of international exchange in all municipalities in the prefecture in addition to all elementary, middle, and high schools, special schools, junior colleges and universities in Toyama. In addition to the notice boards at the Toyama Prefectural Office, we also pinned them to various notice boards

at Toyama City Hall, the Prefectural Civic Hall, and the Toyama Shimin Plaza, all places that the general public often visits. Also, keeping in mind that these events need digital advertisement, we created an event page on Facebook where we posted information about the event. Each CIR also promoted it to their friends and colleagues as well as students. We created special posters for volunteer registration and photo contest submissions this year as well.

Finally, in order to get feedback from all the volunteers, we decided to conduct a survey. All their responses will certainly be used for the preparation of next year's festival.



ステージ・パフォーマンス

ウェイジア ジュウ(カナダ)

斉 東亮(中国)

ホアン ティ チャム(ベトナム)

今年のステージ・パフォーマンスは、タワー111のスカイホールで行われました。今年はまた新しい会場に挑戦し、新型コロナウイルスが流行っている中で、最初は来場者の集まりをととても心配していました。しかし、前年より少なかったものの、こうした背景の中でたくさんの観客に集まってくれたことは、私たちにとって大成功でした。



今年は JET プログラム参加者の出身国を中心として、その国の方々の出演を募集していました。ブラジル、ロシア、インドからのパフォーマンスは、出演者の都合によってキャンセルされましたが、その代わりに、ベトナムから初めてのパフォーマンスが登場しました。これは JET 世界まつりを開催して以来、初めてのベトナムパフォーマンスであるため、大変嬉しく思いました。また、県内の JET 参加者のみならず、県外の JET 参加者及び元 JET 参加者まで出演していただき、大変感謝しています。

今年のステージでは、各国語の歌、特色のある踊り、印象的な楽器演奏及び面白いマジックショーなどの多様性のあるパフォーマンスが披露され、非常に賑やかな雰囲気でした。来場者の楽しそうな顔を見て、主催者の私たちには、何よりもの褒美でした。これも出演者の方々をはじめ、責任感の強いボランティアの方々や熱心な音響担当のおかげです。県外の出演者には遠くから富山にお越しいただきました。心の底から感謝しています。

さらに、去年の反省点を踏まえ、今年は時間通り閉会をしました。ボランティアの皆さまの協力のおかげで、控室や待機エリアが混乱せず、問題もなく、順調に進行できました。ただ一つの反省点は、今年のステージ・パフォーマンスは JET プログラム参加者の出身国を中心として募集したのですが、舞台の万国旗にはベトナムなどいくつかの国旗がなく、出演者に指摘されました。



最後にカラオケタイムで JET 世界まつりの実行委員が集まり、観客とボランティアの方々と一緒に「残酷な天使のテーゼ」を歌って閉会しました。歌詞のように、JET 世界まつり及び JET 参加者の皆さま、来場者の皆さま、「誰よりも光を放つ、少年よ、神話になれ」と願っています！

Stage Performances

Wei Jia Zhu (Canada)

Qi Dongliang (China)

Hoang Thi Cham (Vietnam)

This year's stage was held in the Sky Hall of Tower 111. At first, we were anxious about whether we would be able to gather a sufficiently large audience, considering that we were hosting it at another brand-new venue and the outbreak of the coronavirus. However, although a smaller crowd than last year, the stage still attracted a large number of spectators under these circumstances, which meant a great deal to us.

This year, we focused on showcasing performances from participating countries of the JET Programme. Although performances from Brazil, Russia, and India were canceled due to the performers' schedules, we were delighted to have had the chance of hosting a performance from Vietnam, the very first in the JET World Festival's history. Additionally, we were tremendously pleased that not only current JETs in Toyama, but also some from outside the prefecture and even former JETs came to perform on stage.



The stage was animated by a variety of performances including singing in different languages, folk dances, impressive instrumental performances and a delightful magic show. The smile on the spectators' faces was the greatest reward for us. The stage could not have been a success without each and every performer, the volunteers with their great sense of responsibility, and our dedicated sound technician. We would also like to express our gratitude to the non-JET performers from outside the prefecture who came to take part in this festival.



Furthermore, learning from last year's experiences, we were able to begin and finish the stage performances on time, and the standby area was managed without confusion thanks to our volunteers' sense of organization. One point on which we can still improve is that, although this year's stage mainly focused on representing JET Programme countries, some national flags (for instance, the Vietnam flag)

were missing from the decor.

Lastly, as a special number before the closing ceremony, the executive committee CIRs all gathered to sing "A Cruel Angel's Thesis" in karaoke on stage, joined by the audience and volunteers. We hope that the JET World Festival will continue to be a success, and that, just as the lyrics of "A Cruel Angel's Thesis" say, the JETs and audience will continue to "shine brighter than anyone/ Go forth, and you'll become a legend!"

時間	演目 Act	出演者 Performers
12:15	バイオリン&ピアノ二重奏 Violin & Piano Duo	ヘイリー&ジョーイ Hayley & Joey
12:35	三味線演奏 Shamisen Performance	クリス・ブラウン Chris Brown
12:55	アメリカのフォークとカントリーミュージック American Folk & Country Music	ラーズ・ソーダバーグ Lars Soderbergh
13:15	インドネシアのアンクルンオーケストラ Indonesian Angklung Orchestra	PPI Hokuriku PPI 北陸
13:35	バンジョー演奏 Banjo Performance	スチスマン・ガンゴパディアイ Suchisman Gangopadhyay
13:50	韓国の人気の歌 Popular Songs from South Korea	ユ・セビョル Yu Saebyeol
14:10	ジャグリング&マジック・ショー！ Juggling & Magic Show!	Mr. ノリック Mr. Norick
14:30	ベトナムの踊りと歌 Dances and Songs from Vietnam	富山県ベトナム人会 Vietnamese Society in Toyama
14:45	中国の武術 Chinese Martial Arts	富山武術会 Toyama Martial Arts Association
15:00	フィリピンのフォークソングと踊り Filipino Folk Songs & Popular Dances	北陸カトリックフィリピン人コミュニティ Hokuriku Catholic Filipino Community (HCFC)
15:20	アメリカのソウル・ミュージック Soul Music from America	エリック・カスティエロ Eric Castile
15:40	カラオケタイム Karaoke with JETs	全員 Everyone



JET アート&デザイン展

俞 セビョル(韓国)

今年も引き続き、JET アート&デザイン展を実施しました。12月に県内で活躍している JET 参加者に声をかけ、作品の募集をしました。最終的に5名の JET 参加者の作品と ALT が中心となっているアートグループ TAG(Toyama Artists Group)の作品を展示しました。伝統的な飾り、詩、油絵、コラージュ、カリグラフィー、カバンなど様々な作品を展示することができました。今年は昨年とは別の会場であったため、作品を自由に観覧できるようにデスクと展示ボードを設置しました。

また、アメリカ出身のジェーミーと1人の日本人ボランティアさんの協力の元で運営することができました。作品を出した参加者たちは直接作品を設置し、他の参加者の作品も興味深く見てくれました。多くの来場者の方々が作品展示を楽しんでくださいました。



JET Art&Design Exhibit

Yu Saebyeol (South Korea)

Continuing from previous years, we held the JET Art&Design Exhibit at this year's festival. We contacted JET Programme participants in December and sent out a call for art pieces. Ultimately, we showcased traditional decorations, poems, oil paintings, collages, calligraphy, bags, and other items from 5 JET participants and the Toyama Artists Group (TAG), which consists mainly of ALTs. The event was held at a different venue this year, so we organized the area with desks and exhibition panels so visitors could view the works freely.

Furthermore, the exhibit was operated with the help of volunteers: Jayme (U.S.A.), and a local Japanese resident. The works were set up directly by their creators, who were all very interested in the other works as well. Many guests visited the exhibit and enjoyed the exhibition.



国際ブース

グラセ マチユ(フランス)

国際ブースは JET 世界まつりの定番で、今年も大人気でした！今年の国際ブースはステージと同じホールで実施したので、国際ブースのボランティアから「ステージの演奏やダンスを見ることができて嬉しいです」と感謝の声が届きました。

今年の国際ブースは 17 ブースあり、カナダ、ブラジル、インド、ベトナム、イギリス、韓国、オレゴン、中国、インドネシア、トリニダードトバゴ、フィリピン、アメリカ、アイルランドの 13 ヶ国・地域が出展しました。それに加えて、富山市民国際交流協会、南砺友好交流協会、富山県外国人ワンストップ相談センター、そして富富富のブースも出展しました。



今年の会場は狭かったうえに、国際ブースを JET 参加国に限ることになったり、何人かの留学生が参加できなかったりしたことで、例年に比べると出展国数が少なくなったにもかかわらず、来場者は各ブースに興味津々で、ホールは楽しい雰囲気であふれていました。

国際ブースの準備は去年の 12 月から始まりました。知り合いの ALT や留学生、友達に、世界まつりと国際ブースについて紹介し、SNS で参加を呼びかけました。最初は 14 ブースほどを想定していましたが、その後相談センターや富富富の関係者から出展希望をいただき、最終的に 17 ものブースに出展いただけました。

残念ながら、富富富のブースはイベント準備中にボランティアへ試食をよびかけた後、片づけて帰ってしまいました。今後はイベント自体に参加してもらえないブースや機関の参加は控えてもらいたいと思います。



去年同様、アンケートと来場者がどこから来たか示してもらうために富山の地図を設置しました。富山県全域から来場者がありました！ボランティアや他の CIR、菅野先生のおかげで、今年も JET 世界まつりは成功でした。来場者にとっても大変有意義な経験になったと確信し、来年も楽しみです。

International Booths

Mathieu Glacet (France)



The international booths are a staple of the JET World Festival, and once again, they were a huge hit! This year, the international booths were in the same hall as the stage; some booth volunteers were extremely happy about this, with one saying, “I’ll finally be able to see the performances and the dances!”

This year, we had 17 booths, including the following 13 countries and regions: Canada, Brazil, India, Vietnam, United Kingdom, South Korea, Oregon, China, Indonesia, Trinidad and Tobago, Philippines, United States of America, and Ireland. In addition, we had booths from the Toyama Cosmopolitan Association, The Nanto Goodwill Exchange Association, the Foreign Resident Support Center, and the Fufufu rice booth.

The space in this year’s venue was a bit tight, and due to the fact that only countries participating in the JET Programme were allowed this year, and that some study abroad students could not participate, the number of booths was lower than last year. However, this did not hamper the visitors’ curiosity. They visited each booth with great enthusiasm, and the main hall was filled with a fun atmosphere.

Preparations for the international booths started last December. We contacted ALTs, exchange students, and friends. I explained the concept of the international booths and urged many people to participate by contacting them directly on social media. In the beginning, I had planned to have around 14 booths, but the Support Center and Fufufu both expressed interest later, so the number eventually changed to the final total of 17.



Unfortunately, the Fufufu booth only held a rice tasting for the volunteers and immediately packed their bags and left right after the festival started. I believe that in the future, we should not agree to let organizations or booths participate unless they plan on staying for the event.



Just like last year, I also had a map of Toyama to show where people came from and surveys, and once again, we had visitors come from all over Toyama Prefecture! Thanks to the volunteers, the other CIRs, and Sugano Sensei, this year’s JET World Festival was once again a success. I’m sure it was very enriching for the visitors, and I look forward to next year!

国際カフェ

リンジー ヘンダーソン(アメリカ)
オレグス ピシュチコフス(ラトビア)

国際カフェでは、例年 JET 参加者の出身国のお菓子と飲み物（お茶、コーヒー）を紹介しています。前日に CIR（国際交流員）だけでなく、ボランティア（ALT、県費留学生など）の皆さんにもご協力いただき、頑張って作ったお菓子をお客様は無料で味わうことができます。

メニューについて

今年作った 5 つのお菓子は以下の通り。

- ① 失業者のプディング（カナダ）
- ② サルダイス・カルテッペリス（ラトビア）
- ③ ジーラ・ビスケット（インド）
- ④ グジュール・オ・フロマージュ（フランス）
- ⑤ 花生芝麻糖 ピーナッツとゴマ飴（中国）

味の多様さを目指し、去年と同じく今年も甘いものも甘さひかえめなもの（フランスのグジュールとギーラ・ビスケット）を用意し、各種 100 人分作りました。



前日の準備

去年のように 2 つのグループに分かれて、富山市の環日本海交流会館と黒部市国際文化センターコラーレの 2 か所でお菓子を作りました。去年に比べてオーブンで焼いたお菓子が多くありましたが、時間を効率的に使い、お互いを励まし合いながら、準備を順調に進めることができました。

今年の JET 世界まつりは例年と違い土曜日に開催されましたので、前日の準備は金曜日に行くことになり、今回は CIR だけで作りました。

当日の運営

今年、国際カフェはとやま国際センター内で行われ、体験コーナーとキッズコーナーの近くで行われました。世界まつりが始まる前にボランティアの方たちと一緒にテーブルを並べ、お菓子を皿に載せ、お湯やお茶の準備などをしました。小さいお菓子を国別に 2 つずつのせた皿と、それぞれのお菓子を組み合わせた皿も準備しました。

「失業者のプディング」というカナダのケベック州の伝統的なお菓子は一番注目を浴びました。1920 年代の世界恐慌の頃に女性の工場労働者によって、貧しい人でも作れるようなデザートとして考案されたお菓子は、名前とその由来が面白いだけでなく、味も高く評価されました。そして、今年は広い休憩スペースがあって、お客様からは、「座りながらお菓子を食べたり、お茶を飲んだり、様々な人々と話をしたりすることができてよかった」ととても良い感想をいただきました。

様々な国からいらっしゃったお客様に世界の食文化を紹介し、普及することができ、非常に充実した経験になったと思います。そしてお客様から「ありがとう」、「美味しかった」という感想を聞いたことは何よりのご褒美でした。

International Café

Lindsey Henderson (U.S.A.)
Oļegs Piščikovs (Latvia)

Each year at the International Café, we introduce food and drinks (tea & coffee) from the countries of JET participants as well as carry out intercultural exchange with bright smiles. Visitors to the festival can enjoy the dishes free of cost, which are prepared the day prior to the festival with the help of CIRs and volunteers (ALTs, prefectural study abroad students, etc.).

About the Menu

The five types of dishes we prepared are as follows:

- ① Pouding chômeur (Canada)
- ② Saldais Kartupelis (Latvia)
- ③ Jeera Biscuits (India)
- ④ Gougères au fromage (France)
- ⑤ Huā Shēng Zhī Ma Táng
(Peanut & Sesame Brittle) (China)

We aimed for an assortment of flavors, and like last year, we also prepared some savory options (gougères, jeera biscuits) in addition to the sweet options. We made 100 of each item listed above.

Baking & Preparation

As was done last year, we split into two teams and made the dishes in two locations: the Northeast Asia Regional Intercultural Center in Toyama City, and the Colare International Center in Kurobe City. This year, quite a few items were baked goods, but we used our time effectively and were able to carry out preparations smoothly while encouraging each other along the way.

This year, unlike in years past, the JET World Festival was held on a Saturday, meaning that preparations were carried out on a Friday. Therefore, we relied on the help of CIRs alone this year.

Day of the Festival

This year's International Café was held in the Toyama International Center (TIC), close to the Multicultural Experience Corner and Kids Corner. Before the festival began, we did tasks such as lining up tables, plating treats, preparing hot water and tea, and so on. For the smaller items, we put two items per plate and prepared combination plates as well.

The traditional Canadian pouding chômeur ended up receiving the most attention. This dish's name translates to "Unemployed Man's Pudding" and was created in the 1920s by female factory workers during the Great Depression as a dessert that even those without means could make. Not only are this treat's name and origin interesting, its flavor also received rave reviews, too. Additionally, there was a large seating area available, and we had great responses from attendees that they enjoyed being able to sit down, eat, drink tea, and chat with various people.

Being able to introduce different food cultures and popularizing dishes from around the world was an incredibly fulfilling experience. Moreover, hearing, "Thank you!" and, "It was delicious!" from the attendees was a reward worth more than gold.



キッズコーナー

シェイマス ギルドナー(アメリカ)
韓冰(中国)

ゲーム：ミニゴルフ、輪投げ、オセロ、ツイスター、ミニバスケットボール、クラッシュアイスゲーム
クラフト：ビーズアート、ロープアート、キネティックサンド、折り紙
その他：キッズプログラミング、マジック、フェイスペイント、スタンプラリー



キッズコーナーの最大の目的は国際的な遊びや活動を通して子供達に楽しんでもらうことでした。今回もテーブルごとにビーズアート、プログラミング、フェイスペイント、スタンプラリー、いろいろなクラフトとゲームなどを準備しました。



今年の世界まつりは初めて土曜日に開催されたので、ボランティアと来客の人数はいつもよりちょっと少なかったですが、部屋が広くて、あまり混んでいなかった分、子供達がゆっくり回り、いろんなゲームや活動を試すことができました。



今年は祭りコーナーを作り、ミニゴルフや輪投げ、ツイスターなどのゲームをした子供に世界のお菓子をあげました。フェイスペイント、マジック、プログラミングも大人気でした。また、いつも混み合っていて人気のあるビーズアートのテーブルにも十分な席を用意し、子供達を待たせずにスムーズに行うことができました。



反省点は子供連れの大人ではないと入らせないつもりでしたが、その旨を伝える張り紙を用意していなかったことです。今年はボランティアが少なく、出入り口は2つあったので、少し部屋を管理しにくかったです。また、子供達がはっきりどんなゲームかわかるように「フェイスペイント」や「ミニゴルフ」などの看板を作った方が良いと思います。

全体的にキッズコーナーは大成功でした！こうした国際的なイベントで小さな子供達に楽しんでもらいながら様々な文化を紹介させていただき、私たちは喜んでいきます。また来年もよろしくお願いします！

Kids Corner

Seamus Gildner (U.S.A.)
Han Bing (China)

Games: Mini-golf, Ring Toss, Othello, Twister, Mini-basketball, Crush the Ice

Crafts: Bead Art, Rope Art, Kinetic Sand, Origami

Other: Kids' Programming, Magic, Face Painting, Stamp Rally



The main purpose of the Kids Corner is to provide a fun and energetic space where kids and parents can try a variety of international games and crafts. This year, we set up many tables where the kids could try bead art, face painting, computer programming, and various other games and crafts.

This was the first year we hosted the JET Festival on a Saturday, and while we had fewer volunteers and visitors than in previous years, all of the kids who came had a very fun time. Moreover, since the room this year was spacious and less crowded than in previous years, the kids could take their time trying all of the various crafts and activities.



This year, we set up a “Festival Game Corner” where kids could play games like mini-golf and ring toss and win international candies. As always, face painting, kids' programming, and the magic booth were also very popular. Since bead art is typically the busiest and most popular activity in the Kids Corner, this year, we set up many chairs and tables and were able to smoothly run the bead art without making any kids wait for a seat to open up.

One thing we should make sure to remember next year is to print out signs notifying visitors that Kids Corner access is only permitted to parents and children. This year, we had fewer volunteers and the Kids Corner had two entrances, so it was a little harder to monitor the entire room. Also, it would be better to make signs such as “Face Painting” and “Mini Golf” clearly labeling the various activities to make it easier for the kids to understand what activity is at each table.

Overall, this year's Kids Corner was a success! We are happy to have the opportunity to introduce various cultures at this annual international event to kids at such a young age. We would like to give a special thank you to all our lovely volunteers who made this year's Kids Corner possible. Thank you so much, and we hope to see you next year!



世界いろいろ体験コーナー

ヨシムラ マルセロ(ブラジル)
エリック ジュティラ(アメリカ)

今年の「世界いろいろ体験コーナー」では、途中からでも参加しやすい体験を考えました。そのため、最初の数分はあまり参加者が集まらなくても、体験室のドアを全開にしておくことで、音や賑わいにつられて途中参加する方が多くいました。あまり時間がない方でも、少しだけでも参加できる方式になっていて良かったと思います。また、参加するのが恥ずかしい方でも、自由に体験室に入って壁際で見学できるように部屋のレイアウトを考えました。

体験のプログラムは以下のとおりです。

時間	体験	講師
12:10～12:50	アメリカの中西部の トランプゲーム： ユーカー	CIR（国際交流員） エリック ジュティラ
13:05～13:50	ゴスペルを歌おう	エリック カスティーロ (代： 宮 美智子)
14:15～15:00	フィリピンの武術： アルニス	ALT（外国語指導助手） ドミソン アブアン
15:15～16:00	ブラジルの武術： カポエイラ	ALT（外国語指導助手） ペニエル ハギンス 他

世界
いろいろ
体験
コーナー



当コーナー担当者のエリックも地元のトランプゲーム・ユーカーの紹介をしました。6つの4人グループに分けて、それぞれのテーブルでゲームを楽しんでいただきました。

アメリカ発祥の音楽・ゴスペルの体験は元々テーブルやイスを配置し教室形式で行う予定でしたが、参加者の皆様が途中から立ち上がり、先生を囲むようにして歌っていました。講師の宮さんは「ステージアトラクション」でも披露されたプロ歌手エリック・カスティーロさんの奥様で、ステージでの合唱に参加者を誘っていました。

テーブルやイスを使う体験はプログラムの前半に開催し、後半に備品を撤去し広い空間を必要とする格闘技体験を置きました。

フィリピンの武術「アルニス」では、市販のポリ塩化ビニール製水道管を切って作った武器を参加者に持たせ、実際に武器を使って技や型を練習しました。南砺福野高校でALT（外国語指導助手）を務めている講師のドミソンさんは、技だけでなく動きの意味や礼儀についても解説していました。

ブラジルの「カポエイラ」は武術と音楽と踊りを合わせたようなもので、県内でALTを務めているペニエルさんと他の「カポエイリスタ」たち（カズヒト、バク、マキ、クラ、スズキ）が解説と指導をしました。音楽もあり技も華麗で踊りに近いので、皆さんダンスをしているかのように楽しんでいました。

講師以外にも、開催時間前の準備や周辺の飾り、開催中の運営や裏方の仕事を手伝うボランティアが3名（ALT2名、一般1名）もいたので、体験コーナーは問題なく終えることができました。

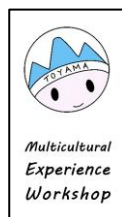
講師とボランティアの方々及び参加者に改めてお礼を申し上げます。今年もありがとうございました。



Multicultural Experience Workshop

Marcelo Yoshimura (Brazil)

Eric Jutila (U.S.A.)



This year, we provided a variety of experiences so participants could easily join in for just part of an experience or the full duration. To accomplish that, we left the door to the workshop room open for the entirety of the festival to allow the sounds of people enjoying the workshops to echo into the hallways. Consequently, a number of participants were able to come during the middle of workshops, which was great for people who were short on time or only interested in a brief experience.

Additionally, the layout of the room was set so that people who were too shy to participate could still enter the room and freely observe. The schedule for this year was as follows:



Time	Workshop	Instructor
12:10~12:50	Midwestern USA Card Game Euchre	CIR Eric Jutila
13:05~13:50	Singing Gospel Music	Eric Castile (subst: Michiko Miya)
14:15~15:00	Filipino Martial Art Arnis	ALT Domyson Abuan
15:15~16:00	Brazilian Martial Art Capoeira	ALT Penniel Huggins (and other members)

During the first workshop, Eric Jutila, one of the supervisors of this corner, presented a card game that is often played in his home state and much of the Midwestern United States. There were 6 tables set up where at each a group of 4 could enjoy the game.

For the American Gospel Music Workshop, we had originally planned to set up the tables in a classroom style, but during the workshop, everyone was to stand up and form a circle around the instructor, so there was no need to rearrange the room. The presenter was Michiko Miya, who is the wife of Eric Castile, a professional singer and one of the festival's stage performers. Many of the chorus members in the later stage performance were present for the workshop as well.



All of the workshops that may have needed tables were scheduled for the first half of the festival, and then the tables and seats were all removed to create a wide space for the martial art workshops held during the second half of the festival.

For the Arnis workshop, which is the national martial art of the Philippines, we bought PVC pipe and cut it to make weapons (a kind of baton) that could be used by the participants so that they could experience the martial art using its actual weapons. The workshop was presented by Domyson Abuan, an ALT here in Toyama Prefecture, and he taught not just the techniques of Arnis but also the meaning behind every movement and the proper manners for practicing the martial art.

For the last workshop, Penniel Huggins, another ALT here in Toyama Prefecture, taught Capoeira with other "capoeiristas" of his group (Kazuhiro, Baku, Maki, Kura and Suzuki). Capoeira is a traditional Brazilian martial art that mixes fighting techniques with music and dance. As participants practiced the techniques to the music, it gave one the feeling as though they were all part of a coordinated dance as they carried out combination of different striking techniques.



In addition to the presenters, the Multicultural Experience Workshop also had 3 volunteers (2 ALTs and 1 general volunteer) who helped with all the various preparations needed, such as putting up decorations and moving around tables to ensure the workshops were completed without issue.

We would like to express our deepest gratitude to all of the volunteers and presenters who participated this year. Thank you!

写真コンテスト

兪 セビョル(韓国)

今年の写真コンテストのテーマは去年に引き続き「#toyamazing～あなたが amazing (素晴らしい) と思うとやまの一瞬を写してください～」でした。JET 世界まつりのホームページやフェイスブックページに案内文を掲載し、とやま国際センターや環日本海交流会館などにチラシを配るなど様々な所で写真コンテストを宣伝し作品募集をしました。

今年は富山に住んでいる ALT や一般県民の方、また外国人住民の方などから 21 点の応募があり、実行委員の作品なども合わせて 28 枚を展示しました。来場者の投票（1人2票）で最優秀賞1名、優秀賞1名、佳作3名を決めました。受賞者には賞状と所定の商品を贈りました。



最優秀賞 Gold Prize

Challenge in amazing Mother nature ～挑戦～
(Michi)

優秀賞 Silver Prize

ぐーん大きくなあれ
(ponta)

その他の応募作品

Other Submissions



Photo Contest

Yu Saebyeol (South Korea)

Just like last year, the theme for the Photo Contest this year was “#toyamazing – Capture a Toyama moment that you think is amazing.” We uploaded information on the JET World Festival website and its Facebook page. We also publicized the contest by leaving leaflets at the Toyama International Center, the Northeast Asia Intercultural Center, and many other locations.

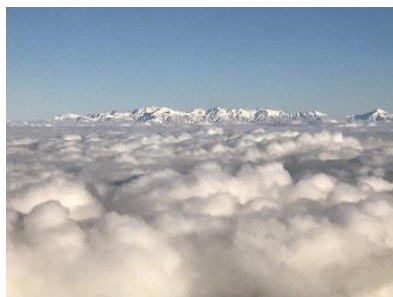
This year, we had 21 submissions from ALTs living in Toyama Prefecture, Japanese residents, and foreign residents. Combined with the other pictures out of the contest running from the Executive Committee, the Photo Exposition showcased a total of 28 photos.

Each visitor was given two votes, and the photos with the most votes, second most votes, and third to fifth most votes respectively received the Gold, Silver, and Bronze prizes. The winners were awarded a certificate and a small prize.

佳作 Bronze Prizes:



富山晴れと孫の笑顔
(笠間芳子)



雲上の山々
(michipon)



日常
(Kosuke Imai)

その他の応募作品

Other Submissions



対象外作品

Non-Contest Submissions



参考資料

○「語学指導を行う外国青年招致事業（JET プログラム）」について

JET プログラム(The Japan Exchange and Teaching Programme)は、総務省、外務省、文部科学省の協力のもと、地方公共団体(都道府県、政令指定都市及び市町村)が外国青年を招致する事業であり、外国語教育の充実をはかるとともに、地域レベルでの国際交流を推進することを目的としています。これまでに日本全国で世界75ヶ国から 70,000 人以上の外国青年を招致している世界最大規模の交流プログラムです。

JET 参加者の職種と職務

国際交流員 CIR : Coordinator for International Relations 県庁や市役所等で国際交流や異文化理解の活動の補助や協力をしています。
外国語指導助手 ALT : Assistant Language Teacher 小・中学校、高等学校等で外国語の授業・活動の補助や地域の国際交流活動の協力をしています。
スポーツ国際交流員 SEA : Sport Exchange Advisor 地域・学校等におけるスポーツ指導への協力を行っています。(※現在富山県内には配置なし)

○富山県内の JET 参加者について

富山県では、昭和63年度に外国語指導助手5名を招致して以来、多くの外国青年を受け入れてきました。令和元年度は100名の外国青年が県内各地で活躍しています。

招致人数推移

年度	昭 63	平 5	平 10	平 15	平 20	平 25	平 30	令和 1
CIR	0	0	13	13	12	10	11	12
ALT	5	7	114	118	85	80	84	88
SEA	0	0	4	5	0	0	0	0
合計	5	7	131	136	97	90	95	100

国別招致者数(令和元年度)

出身国	人数
アメリカ	62
イギリス	9
カナダ	6
フィリピン	6
アイルランド	3
トリニダード・トバゴ	3
中国	2
オランダ	1
オーストラリア	1
ジャマイカ	1
南アフリカ	1
ブラジル	1
韓国	1
ラトビア	1
インド	1
ベトナム	1



○「JET 世界まつり」について

県内で活躍している JET プログラム参加者たちが中心となり、出身国・地域についての紹介やステージ発表などを通して、県民の異文化理解を深め、県民と JET プログラム参加者の交流を図る目的でスタートし、**今回で記念すべき 25 回目を迎えました！**

年	市町村	会場	年	市町村	会場
8	黒部市	黒部市国際文化センター コラーレ	20	射水市	アイザック小杉文化ホール ラポール
9	高岡市	ふれあい福祉センター	21	黒部市	黒部市国際文化センター コラーレ
10	富山市	サンフォルテ	22	高岡市	ウイング・ウイング高岡
11	小矢部市	クロスランド小矢部	23	富山市	グランドプラザ
12	婦中町	婦中町ふれあい館	24	高岡市	ウイング・ウイング高岡
13	黒部市	黒部市国際文化センター コラーレ	25	黒部市	黒部市国際文化センター コラーレ
14	新湊市	新湊市中央文化会館	26	富山市	富山市民プラザ
15	高岡市	ふれあい福祉センター	27	富山市	サンフォルテ
16	魚津市	魚津テクノスポーツドーム ありそドーム	28	富山市	サンフォルテ
17	福岡町	福岡町総合市民センター Uホール	29	富山市	サンフォルテ
18	滑川市	サン・アビリティーズ	30	富山市	サンフォルテ
19	富山市	富山市民プラザ	31	富山市	富山国際会議場

○「とやま名誉友好大使」について

富山県を広く外国に紹介するため、適任と思われる本県在住外国人の方が帰国される際、「とやま名誉友好大使」の称号を授与し、諸国と富山県との「架け橋」として活躍してもらっています。これまでも多くの JET 参加者が名誉友好大使に委嘱されています。

○AJET (The Association for Japan Exchange and Teaching)

JET 参加者で作る親睦団体で、富山県の AJET は全国でも活動が盛んだと言われています。新規来日 JET 参加者のオリエンテーション等への協力、ニュースレターの発行等 JET 参加者のために行う活動だけでなく、チャリティ活動や JET 世界まつり等、広く県民のためとなる活動も行っています。

JET プログラム等に関する詳しい情報は・・・

○JET プログラムのページ：（公財）自治体国際化協会

<http://jetprogramme.org/ja/>

○富山県国際交流員ブログ

<http://toyamacir.net/>

JET プログラムで来県している国際交流員の活動を紹介しています！

○JET 世界まつりのページ

<https://toyamazing.wordpress.com/>

JET 世界まつり 2020 実行委員紹介 Part 2
Introduction of the JET World Festival 2020 Executive Committee

入善町 英語国際交流員



Seamus Gildner (US)

－ シェイマス・ギルドナー (アメリカ) －



副
実行委員長

Q: 国に帰る前に、日本でしたいことは？

A: 車で長旅したいです！

6月に富山から出発し、四国を横断し、
福岡県まで行く予定です。

Q: JETは終わってからの予定は？

A: カリフォルニア州にある大学院に入り、
翻訳を勉強する予定です！

Q: 富山県に来てからの一番良い思い出は？

A: もちろん高岡市の女性と
結婚することです！

県国際課 中国語国際交流員

韓 冰 (中华人民共和国)



－ カン・ヒョウ (中華人民共和国) －



Q: 富山で深い感動を覚えたのはどんな時でしたか？

A: 雪を見た時でした。今年の冬は雪不足だったと言
われていますが、美しい雪景色が見られて感動しま
した。

Q: 一番薦めたい富山の見どころはどこでしょうか？

A: 雪の大谷です。真っ白い雪と氷の世界はとても壮
大で、目の前に聳える巨大な雪の壁を見上げれば、感
動すること間違いありません。

Q: 一番好きな富山の食べ物は何か？

A: 白エビ、寒ブリ、ホタルイカ
…海の幸が大好きです。

黒部市 英語国際交流員



Lindsey Henderson (US)

－ リンジー・ヘンダーソン (アメリカ) －



Q: アメリカのどこの出身ですか。

A: 自由と自信があふれているテキサス州です。

Q: テキサス州にカウボーイがいますか。

A: いますが、ウエスタン映画が作り上げたかっこい
いガンマンみたいな方でない。残念です。

Q: 馬に乗ったことがありますか。

A: あります！

でも、通学のためなど毎日には乗っていませんでした！

県国際課 ベトナム語国際交流員

Hoàng Thị Châm (Việt Nam)



－ ホアン・ティ・チャム

(ベトナム) －



Q: 富山に来た直後の第一印象は？

A: 予想以上暑かったです。8月に来たので、
当時はベトナムと同じくらい暑かったです。

Q: 富山でやりたいことは？

A: スキー、雪だるま作り、雪見露天風呂など色々想像
していましたが、南国の暑さを持って来ちゃって、
今年は前例のない暑い冬だそうです。

Q: 夢は何？

A: なくなる前に 10 か国語話せること。

高岡市 英語国際交流員
Wei Jia Zhu(CA)



- ウェイジア・ジュウ (カナダ) -



Q: 出身はどこですか？

A: ちょっとカナダ人に見えるかもしれませんが、
実は日本人です。
…すみません。逆でした。

カナダのモントリオール市という寒い場所から来ました。

Q: なぜ日本に来たんですか？

A: 小さい頃からずっと日本の文化が好きで、大学を卒業
してから国際関係の仕事を目指し日本に来ました。

Q: 以下の選択肢の中で正しいのはどれ？

1. ケベック州では、義務教育がフランス語で行われています。
2. カナダ人なのに英語が話せない時期もありました。
3. 母語は中国語です。

A: どちらも正しいです。

県国際課 中国語国際交流員

齊 東亮(中華人民共和国)



- サイ・トウリョウ(中華人民共和国) -



Q: 出身は？

A: 中国遼寧省瀋陽市です。今年は、
遼寧省と富山県が友好提携 36 年目になります。

Q: 富山の好きなところは？

A: 豊かな大自然、おいしい海と山の幸、
人情味あふれる人々、
車社会だけど頑張ればなんとか歩いて行ける距離感、
聞き入ってしまうけどはっきりわからない富山弁です。

Q: 富山との縁は？

A: 高校時代の日本語の先生は富山ご出身です。
昨年、13 年ぶりに再会できました。

県国際課 ロシア語国際交流員

Oļegs Piščikovs (Latvija)

オレグス・ピシュチコフス



Q: 最近頑張っていることは？

A: 日本語の勉強です。母国ではあまり使う機会がなかつたので、来日してからできる限り日本語を話したり、小説を読んだりしています。

Q: 国内で一番旅行に行きたいところは？

A: 日本四島の中で四国だけ行ったことがないので、今年中に是非行ってみたいと思います。

Q: 来日する前に何をしました？

A: ラトビア国立図書館の東アジア研究センターの読書室で司書の仕事をしていました。東アジアの文化に関するイベントを企画したり、学生相談を行ったり、日本人の来館者の相談・見学を行ったりしていました。

南砺市 英語国際交流員

Eric Jutila (US)

エリック・ジュティラ (アメリカ)



Q: 出身はどこですか？

A: アメリカのミシガン州です。

Q: そこは雪が降りますか？

A: 富山ほど降りませんが、気温は -35 度までいきます。

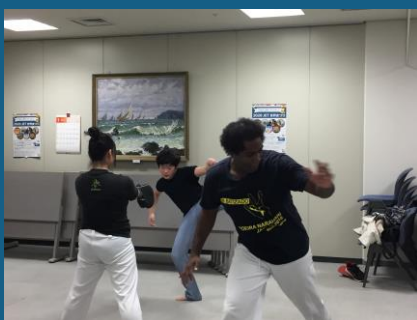
Q: 趣味は何ですか？

A: ランニング、格闘技、ロッククライミング、スノボ、
マウンテンバイク、山登り、キャンプ、ゲーム、
ウェイトリフティング...

Q: 日本語が上手ですね。
どうやってそんなに上手になりましたか？

A: まだまだです。

大学で毎日 4 時間以上勉強したんです。



JET 世界まつり 2020 報告書 A Report on the JET WORLD FESTIVAL 2020



JET 世界まつり 2020 実行委員会
JET WORLD FESTIVAL
2020 Executive Committee